

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成30年度採択）

中間評価（案）（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
30-2	交通流理論と AI 学習による非日常の発見とアラート発信	東北大学 教授 桑原 雅夫	A
<p><研究の概要></p> <p>交通流理論と AI 学習を用いて、移動体データと気象・地形データ等を融合解析し、リアルタイムに非日常の「発見」と「事前アラート発信」を行う手法を開発する。対象とする非日常は災害時の道路損傷、冠水、豪雪、Gridlock 等だけでなく、観光地やイベント時の渋滞も含む。</p> <p><中間評価結果></p> <p>道路損傷や冠水などの非日常の発見、非日常の事前アラート発信、リアルタイム可視化システムの検討それぞれにおいて、貴重な知見が得られており、今後の研究の見通しにおいても成果が期待できることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><参考意見></p> <p>1. 非日常の発見と事前アラートとの間のつながりなど、個別研究項目間の関係を意識しつつ、具体的な検討を進めることが望ましい。</p>			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第36回新道路技術会議において審議したものである。